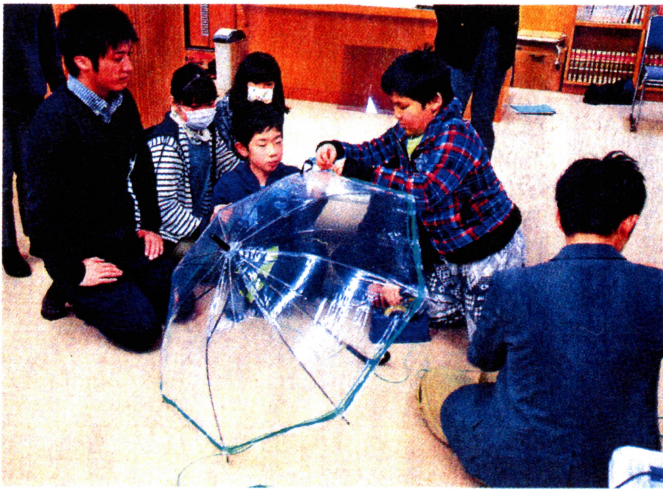


やった！ラジオ放送受信

日本国際賞などで知られる国際科学技術財団(本部・東京)の「やさしい科学技術セミナー」が18日、ひたちなか市枝川の市立枝川小(川又清明校長)で開かれ、茨城大工学部の学生や大学院生らの支援を受けながら、4年～6年の全児童19人がビニール傘でアンテナを手作りし、電波を受信する実験などを体験した。同財団によるセミナーは県内では初めて。

傘使い手作りアンテナ

セミナーは「ラジオス・情報・通信分野の電波をつかまえる！研究で、2014年度「わくわくアンテナ実」に同財団の若手研究者「のテーマで実施さ」支援助成金を受けた同校。エレクトロニク 大工学部助教の鈴木健



ビニール傘にコイルを巻きアンテナ作りに挑む児童。ひたちなか市枝川

ひたちなか 枝川小で科学セミナー

仁さんが講師を務め、鈴木研究室の大学生と大学院生計8人が児童の指導に当たった。

電波の特性を知るため、電子レンジを使って同量の水と油を温め、どちらが熱くなったかを測定する実験などを実施した後、児童は四つの班に分かれ、ビニール傘にコイルなどを巻き付けてアンテナを制作。校舎内外でラジオの電波を捉える実験に取り組み、四つの班が全てラジオ放送の受信に成功した。

4年の稲野辺彩さんは「アンテナの組み立てが楽しかった。傘がアンテナになるなんて驚いた」と話した。

(萩庭健司)